

名古屋男声合唱団 団内誌



Agora

第 31 号 (続)



2024. 10. 20

## ◆第31号(続) 目次 ◆

- |                                    |          |       |
|------------------------------------|----------|-------|
| ◆ 佐々木剛輔さんの歌集「邂逅」                   | B2. 堀崎嘉明 | — 1 — |
| ◆ 「棄民・in 阿智演奏会」への流れ<br>—マイ・ドキュメント— | B2. 堀崎嘉明 | — 4 — |
| ◆ 「演奏会 in 阿智」関連の記録                 | 編集者      | — 8 — |

## 佐々木剛輔さんの歌集「邂逅」

「棄民」演奏会への思いを詠ったものなどの佐々木剛輔著歌集「邂逅」(第6歌集、498首、初版:2024年6月24日)を佐々木さんから頂き、団員の皆さんには7月7日(日)の練習日に回覧しました。Agora 発刊の遅延により掲載をお約束した日時から大変遅れてしましましたが、5年間の「棄民」演奏会への思いを詠ったもの一部を掲載します。



満州開拓の悲劇を風化させてはならないと短歌に詠んできた。詠みきれないとどかしさを助けてくれたのが歌声であった。名古屋男声合唱団指揮者の高橋昭弘さんが『棄民』の短歌に目を留め、創作曲となったのだ。また、パリ大学国立高等研究院名誉教授のロータモンドさんがドイツ語の著書に『棄民』の短歌と挿絵を紹介された。歌集『棄民』が欧州へ渡ったのである。(「あとがき」より)

### 「棄民演奏会」への道で詠う 佐々木剛輔

#### プロローグ

米寿まで届くとはわれ思はずに歩み来たりし一筋の道  
あと二年生きねばならぬ理由がある鴨居の妻にそっと囁く

\*\*\*\*\*

満州を短歌にせんと努めしが歌にそぐわぬと言う声聞こゆ  
満州を伝えんとして歌に詠むその一念で歌集六冊  
第三歌集『棄民』はひとり歩きをしどこへでも行きだれとでも会う  
はからずも合唱団指揮者の高橋さん『棄民』の歌に目を留めくれし  
わが歌集『棄民』の短歌が歌詞となる不安とよろこびと相半ばせり  
楽譜成りてコンサートの日取り決まりしにコロナ禍ゆえに延期やむなし  
練習の自粛も辛き二年間団員の苦惱思ほゆるかも  
合唱団ここで踏ん張り演奏会を成功せんと努めくれたり

\*\*\*\*\*

亡き妻と棄民コンサート聴ける日は半年先の十月二十九日  
コロナ絶え来る年こそは開かれむ棄民公演会晴ればれとして

#### 「棄民」演奏会初演 —2022年秋—

指揮者よりの夜半の電話に耳澄ます棄民コンサートの日取り決まりし  
愛知県芸術劇場コンサートホール十月二十九日

わが歌集『棄民』の短歌が歌詞となる稀なことだと同人言いき  
夢に見し棄民演奏会現（うつつ）なり米寿の歳の賜物となる  
二人分の招待券は届きたり鴨居の妻と連れ立ち行かん  
チケットに「棄民」の文字の大きくて香月泰男の絵は訴うる  
(冷静に) と鴨居の妻の戒めにわれは努めて平静保つ  
九月三日われは米寿に届きたりはろばろの道凸凹の道  
米寿なりこのよき歳に来月は名古屋で棄民コンサートある  
楽曲も歌集もこの上なき贈り物贈りしわがまた贈られぬ  
亡き妻の遺影を抱きて門を出る「棄民」初演の秋晴れの朝  
家族らのわれを囲みて開演をしづかに待てり二階前列  
コロナ禍に耐え抜き初志を貫ける合唱団の忍耐思う  
演奏会は語りで始まる昭和初期大陸侵略国策なりき  
ひと鉄の開墾もせず五町歩を拓土奪えど沒法子沒法子（メイファーズ・メイファーズ）  
張さんを臭い汚い読めないとわれらの驕り今にし恥じ入る  
フルートの音色悲しも満州のひとらの叫びに震える音色  
棄民らは飢えまた逃避に疲れ果て救いのなくて姿消しゆく  
合唱団一つになり歌い上ぐ高齢のひとらも力のかぎり  
満州の土となりたる同胞の鎮魂なさむ厳かな声  
妻の遺影も共に聴きたり合唱の低音悲しあわれ棄民の  
満州の棄民の悲劇が歌声となりてホールに響きわたれり  
作曲の岡田さんとわれスポットを浴びて感謝を込めて礼せり  
会場に友人知人と出会いしが言葉少なに別れをしたり  
秋風に黄昏近し感動を胸にしづめて家路につきぬ  
棄民われ生き永らえて米寿なり馬車で行きにし秋男は如何に  
満州を語り続けよあの悲劇風化はならじと父の遺言  
今になぜ満州と言う人あれど語り続けん短歌を武器に  
まだ途上 捜民の悲劇を伝えゆかん健康年齢維持に努めて  
じいちゃんは凄いと孫の言いたりし一つ目標に突き進めれば  
愚かなる国策忘れじ同胞の安らぎ祈るがわれらの勤め

\*\*\*\*\*

元旦は晴れて風なし幸先のよきなり米寿迎えし正月  
さまざまの出来事ありき過ぎし年その第一に棄民演奏会

### 「棄民」演奏会再演 —2023年秋—

待ちわびし「棄民」の再演決まりたり十月七日伊那の阿智村  
阿智村の演奏会の再演に父母妻は鴨居に微笑む

石を積む段段田圃に稻実り林檎色づく阿智村の秋  
満蒙開拓平和記念館開館す歌集『棄民』を出版せる年  
記念館開館十周年記念事業に「棄民」演奏会開く  
長野県の開拓団は日本最多飯田下伊那県下で最多  
山村の貧しき農家が大陸に夢抱きたり国策ありて  
満州を勧める側の父なりきふるさとの村に顔向けならず  
棄てられし少年還り満州を語り続けて八十九歳  
中央公民館の席埋まりゆき座る人らに親しみ覚ゆ  
収穫を早く切り上げ普段着で演奏会に村人集う  
ふるさとの知人寄りきて満州のありし日語り眼潤ます  
開演の迫りて文庫版『棄民』をバックより出し目を通す人  
娘らの付添のあり老いわれは最前列に開演を待つ  
歌声サークル「やまなみ」ありて創作曲「望郷の旅路」を切々と歌う  
伊那谷に名古屋男声合唱団歌声高らか「棄民」歌えり  
同胞は国に棄てられ飢えと病に救いのなくて力尽きゆく  
同一年の秋男は遙かの部落へとゆきたり張さんの馬車に乗せられ  
満州に絶えし同胞よ歌声の天に届けよ安らかにあれ  
満州より還らぬ人の三世か棄民の現（うつつ）に耳を澄ますは  
会場の人らは静まり強張りて拳を膝に歌声を聴く  
茜雲眺めながらに人ら去る棄民鎮魂胸におさめて

### エピローグ

演奏会終わりて昼神温泉へ娘らと五十年ぶりの旅する  
湯を上がりテーブル囲み寛ぎぬ寡黙なわれの饒舌になり  
阿智村の満蒙開拓平和記念館鎮魂の碑は西を向きおり  
展示資料増えたるなかに小中学生の感想文を読むはうれしも

佐々木剛輔歌集『邂逅』（2024年、現代短歌社）所収

この度佐々木剛輔さんの歌集『邂逅』が上梓された。『満蒙開拓国策愚か』に続き三年間に詠まれた498首を収められた第六歌集という。「密度の濃い三年間であった。満蒙開拓の悲劇を風化させではないと短歌に詠んできた。詠みきれないもどかしさを助けてくれたのが歌声であった。名古屋男声合唱団指揮者の高橋昭弘さんが『棄民』の短歌に目を留め、創作曲となったのだ」と「あとがき」に記された文言。この間での佐々木さんの折々の詠唱は、私たちが「棄民」に取り組んだ道程そのもので、そんな思いに胸うたれ、ご本人のご了解を得て「詠譜」にしました。

（堀崎嘉明）

# 「棄民・in 阿智演奏会」への流れ 一マイ・ドキュメント-

堀崎嘉明

帰り際に「阿智演奏会」のことをと編集子さんからの声。深くかかわった者の一人として引き受けた責がある。道のりを振り返り、蘇る情景はさながら「モルダウの流れ」のようであった。

○いつの時かははっきりしない。「名大男声同期会」を終えた地下鉄での昭弘さんとの会話一「名古屋男声」では「戦争体験」をもとに委嘱創作曲に取り組んでいる\*一が、源流との初めての出会いであった。その時はまだ「男声」や「S&T」にも属してなく、よもや「歌う」こと、ましてや「演奏会に深く関わる」ことなど思いもしていなかった。

\*佐々木さんの歌集『棄民』が「中日新聞」で紹介（2014年）されたのが契機。

○本棚に納まる『満蒙開拓国策愚か』佐々木剛輔歌集(2021)。その最終頁には前年10月25日に実施予定の名古屋男声合唱団演奏会のチラシが掲載され、「棄民」の楽譜とともに一

昨秋予定されていた『棄民』のコンサートは新型コロナ感染拡大のため、延期となりました。まずは紙上でお聴き下さい。

罪ふかき満蒙開拓亡き妻の遺影を抱きて歌声聴かん 剛輔 —

を添えた、紙上コンサートの企画が設けられている。

当歌集のタイトル一満蒙開拓国策愚か一は、委嘱創作曲『棄民』のモチーフとなる至言。待ち望んだコロナ禍明け、演奏会に向けて佐々木さんは団員へ『歌集』を、団には多額のご芳志を寄せられた\*。当時、故あって他団から「S&T」「男声」に移り、唱う機会を得ていたので、御本は「我が宝本」となった。

\*団の意見収集の際、「(基金にして)阿智か豊橋などで棄民演奏会を開いては」と発信。

○恒例の「打ち上げ会」もない、しかし「棄民再演」の意思をすぐに生んだ異例な演奏会（22・10・29）。間もない年末には阿智村での再演方針が決った。

実行委員長要請を電話で受けた。「発した言葉」は容赦を許さない。とはいえば年越しでは、「秋口までの短期間」の準備、「空中飛行」の取り組み、「着地点」で多くの人々に迎えられ「盛会裏に終える」ことができるか、など思案いっぱいであった。

幸いNETがある。先ずは「満蒙開拓平和記念館」のHP\*を検索、構想私案(記念館と共に、10月末無料開催)をもとに団ST会議に諮り、記念館に共催申し込み、開催(10月7日)決定をみた(3月末)。

\*23年4月には開館10周年、「語り部の会」(月例)を継続実施する地域活動に着目。

○早速、朗報を佐々木さんにお知らせしたところ、「私にはうれしいことで何かお役にたつことないかと思い、『(新版) 捨民』\*を文庫本にし、寄贈させていただくことにしました」(文庫版後記)との返事に続き、6月には刊行本(入場者に配布)を届けていただいた。御著の「棄民は歌う」(113頁)から三首を引く

罪ふかき満州開拓伝えんと体験もとに短歌に詠みぬ

## 合唱団作曲者交え連日に侃々諤々議論をせしと 合唱に挿む棄民の背景の松崎さんの手記の悲しも

詠いあげられているのは、阿智演奏会の主役群像である。

○演奏会は阿智村を会場とするものの、呼びかけ対象を広く伊那谷地域にとの思いからNET検索、目を捉えたのが飯田市千代小学校の子供たちの姿でした。近くの慰靈碑（長野県は開拓団員が最大、慰靈碑も56基）に刻まれた333人のデータベースを作成、寺沢記念館館長を招いて「満蒙開拓」について学び、渡したというもので、一番に聴いて欲しい群像と直ぐにコピーを撮った。



○記念館との懇談（3月末）。「開館10年記念コンサート」は「心に沁みる企画」をコンセプトに、プログラム構成は「棄民」演奏のほか掛川・筧両氏の独奏、そして佐々木一体験や歌ごころー・寺沢館長ー記念館の歩みと今後ーのお話を柱に、盛会を生み出すには「地元音楽団体の参加」を図ることを確認した。

○とはいえ4月・5月は1、2、3回に要請するも目途立たず、ただ「朗報」を鶴首して待つ静謐な時間が過ぎるばかりであった。急転直下、好転のきっかけとなったのは池田さん\*とのやりとりであった。「棄民」曲の会場合唱指導を依頼したところ、「うたごえサークルやまなみ」による「望郷の旅路」の贊助主演希望が伝えられた。その後に2転・3転、S&Tとの合同演奏（「鶴2曲」）に発展した。S&Tの皆さんには当初から暖かい熱意あふれる応援をいただく中、思いがけない「出演」となった裏事情です。ご承知の通り、効果てきめん。心一つに仕上げた九月の合同練習、折鶴作りへ容赦ない参加と湧き、燃える熱意は筆舌に尽くせない景色を生み、演奏会成功へ強い牽引力となりました。

\*アコの名手、高校教師時代、知多うたごえ活動の牽引者、その姿を手掛かりに依頼。

○名古屋から阿智までは車で約2時間、この間に稻守・高橋さんら数名で3回往復した。2回目はいつもの出発時ながらも、到着は5時間後の15時半。初の実行委員会（7/15）は13時半が開始時間なるも、実行委員の池田忠久（高森）、小沢恭子（飯田）さん、館後援会の方が「棄民CD」を聴き、待っていて下さった。それに到着の遅れは「けがの功名か」？！16時過ぎに佐藤昭三（平谷）\*さんが駆け付け、チラシ・入場整理券配布などのお願ひができた。何とこの日の昼食は恵那で17時半となるも、不思議にも空腹感を覚えなかつた。

\*合唱団みどり旧団員、五子さん夫。当日のステージマネ、大尽力。

○何はとまれ会場（定員500）一杯の聴衆をどう迎えうるかが今演奏会の最大課題で、通常の手足を使った呼びかけ活動ができないなか、見通しは八月前まで立たないままであった。

そんな折、「にっしん平和の集い」（8/5）で三沢（館事務局長）講演が行われるとの情報が昭弘さんから伝えられ団員6名で参加をした。お話は館の「満蒙開拓の体験・史実の掘り起こし」活動からの映像場面\*をもとに展開され、一言一句は明解そのもの、聴衆にすとんと腑に落ちる濃密な学びの時間となつた。

これら話題は館の長年にわたる集積遺産で、子供たちにも伝えるべく努めていること、今回のビラ

は後援会員（550名）に配布・呼びかけをする、9月に新聞記者会見を設けると伝えられた。研究・体験聞き取り・展示普及を主とする館の活動手法とチケットを手渡し呼びかける我々との違いを、改めて認識した機会でもあった。

\*（拒否を続けて）小学校長からの3日の呼び出し。（満州入植を）ハイと答えるまで立たされたと語る老人の姿など「満蒙開拓の歴史」の矛盾・本質・悲劇を教えるもので胸打たれた。

○「記者会見」（9/10）では「中日」「読売」「信濃毎日」「南信州」各記者へ2時間もの紹介、質疑が続いた。3人は若く、他はベテラン記者で鏑矢記事（9/30）は中日女性記者による実に「夕刊一面」でした。さすが女性記者だけに

「ソ連兵に時計さし出しあれらを庇う男装の母～」の哀切歌を見出しに、「来場を呼びかける稻守・高橋両氏を中心に大きな写真入り」で大きな反響を呼び、他紙も相次いだ。効果てきめんで、後援会員から参加応答も一気に進み、実行委員の集約等を加えると「来場希望者会場定員に迫る、札止めにしたい」との三沢さんからの嬉しい知らせ、実に開演4日前にであった。

しかも各社記事は演奏会後も発信され、まさしく「前代未聞の体験」となった。

○岩崎さんら前泊先行隊の尽力で準備は万端。祖母の遺品を携えて京都から駆けつけた方、また東京、滋賀、大阪、福岡や阿智村はじめ地元から予想通りの聴衆が参集。

かくも大きな流れを生んだ底力「信濃毎日新聞」  
(10・11)

は記念館や「やまなみ」など伊那谷地域に根付く文化力で、コンサートは西島さんの朗詠

「『満州』の土となりたる同胞の叫ぶ声聞ゆ耳を澄ませば」  
が、会場に染みわたり大団圓となった。

○2時間の多彩・濃密、強く胸打つ調べにすぐさま筆は動き、短時間ながら実に88筆が寄せられた。以下、かいつまみ紹介したい。

・「ピアノ演奏、ポロネーズ(英雄の力強さと苦悩が伝わってきた)・シューベルトの曲は美しい空と川の流れが想像でき心にしました。」

・「フルートは前両曲も素敵な演奏でしたが、“荒城の月”は先日の満月を思い出し、心打たれました

・「望郷の旅路、鶴、折り鶴は、皆様の歌声がやわらかく、心に届く強さを持つ素晴らしいものでした」

「【折り鶴】、はじめて歌いましたが、皆さんのがたたかい、力強い歌声と重なることで豊かな気持ちになりました。」

・「佐々木さんのお話、鎮魂、同じ過ちを繰り返してはいけないという決意、そして満州国の皆さんへの謝罪、しっかりと心に刻みたいと思います。」「胸につきさり、涙が流れました。」



満蒙開拓伝える組曲 阿智で披露



うたごえ新聞飯田分局版（10・23）

・「10周年のプログラムに感動しました。語りを聞いたり、記念館の展示を見るだけでなく、音楽という文化と合わせて平和について考えることができた今日の企画は大変すばらしかったと思います。」

・「とても良い企画、ありがとうございました。男声合唱を聞く機会がないので、男声合唱 「信濃毎日新聞」(10・11)

ならではの良さで、「棄民」は力強く伝わってきました。【ゴンドラの唄】も、今日来て良かったです。感動！感動！感動！」

○24 新年にケーブルテレビで阿智村内へ暮れに放映されたDVD映

像を惠贈していただき、会場内の場面を初めて鑑賞できた次第（当日は受付係を努めていた）。とりわけ佐々木さんの場面では感極まり、改めて大事な営みに参加できた幸せは、何よりも心の財産となつた。（了）



## 付記

・小文は「うたのはら」（「S&T 団内誌」）への寄稿文です。もとより当誌掲載を想定したものではなく、取組みの経過をわかり易く紹介すべく「マイ・ドキュメント」の手法をとっています。とはいえ「阿智演奏会」は団としての取り組みでしたので、過日に「団員向け Mail」で紹介したところ、編集委員会から転載の要請を受けました。そのため実行委員会の阿智演奏会総括（「S T会議」23・11・5提出）を付け加えておきます。

## ①達成したこと

再演では「棄民」に心寄せ、時・場所を超えて、心に沁みる演奏会を創りあげた。また佐々木・松崎さんには生涯を紡ぐ感慨深い時となった。

「記念館」はじめ「やまなみ」など伊那谷地域の文化力に支えられ、合唱交流を広げることができた。

②取り組みは-寄稿文参照-

### ③取り組みを振り返って

準備実務では3回の下見・現地実行委員会（石子・松田・岩崎・堀崎、稻守・高橋）を実施。現地へは石子・松田号が快走、事前準備・宿泊実務のため前泊では若い力が発揮され、運営を支えた。

団実行委員会の開催は5回。但し「短期実施」をとの判断から、当初（1～3月）は実行委員長の専断となり、本格始動は4月から。開催時間も練習前の限られた条件のなか、不十分さも残った。ST会議との役務分担・調整も試行錯誤のなか、実施では協同作業が図られた。

また遠距離での連絡・意見調整にネットとメールが大いに威力を發揮した。

## 「演奏会 in 阿智」関連の記録

### ① 阿智演奏会（2023年10月7日）収支

#### ●収入

T1 参加費	3 7, 0 0 0
T2 参加費	6 0, 0 0 0
B1 参加費	5 7, 4 0 0
B2 参加費	5 5, 0 0 0
松崎貴子様寄付	5 0, 0 0 0
平谷村村長寸志	2 0, 0 0 0
合計	2 7 9, 4 0 0

#### ●支出

中央日本ツアーズ	7 1 5, 5 8 0
貸切観光バス	1 4 0, 8 0 0
宿泊料金	4 9 2, 1 5 0
入湯税	4, 2 0 0
夕食費	1 3, 5 0 0
名鉄バス	3 5, 1 0 0
通行料	2 2, 3 3 0
旅行傷害保険	7, 5 0 0
チラシ	9 4, 7 1 0
プログラム	1 1 7, 7 0 0
掛川さん謝礼（9月17日・10月7日）	1 8 5, 0 0 0
箕さん謝礼（9月17日・10月7日）	1 1 8, 0 0 0
実行委員旅費（4月3日・7月16日・9月10日・10月7日）	5 6, 2 0 0
昼食代	5 5, 0 0 0
ピアノ調律代	1 6, 5 0 0
看板代	6 9 0
記念館入館料	1 2, 5 0 0
楽譜印刷代	1, 0 3 6
チラシ郵送費	4 6, 3 6 0
DVD	3 5, 0 0 0
プログラム搬送代	1, 3 0 0
礼状コピー代	2, 0 0 0
郵送料	3, 8 0 0
振込手数料	3, 9 6 0
合計	1, 4 6 5, 3 3 6

1,465,336 - 279,400 = 1,185,936 持ち出し

### ②名古屋男声合唱団瓦版など配布印刷物

瓦版 143 号 (p1~16)	2023. 10. 15 発行
瓦版 144 号 (p1~5)	2023. 11. 5 発行
瓦版 150 号 (p1~2)	2024. 2. 18 発行
瓦版 154 号 (p2)	2024. 5. 19 発行
瓦版 155 号 (p1)	2024. 7. 7 発行
瓦版 156 号 (p2)	2024. 7. 21 発行